上田遺跡・鵜沼西町4号墳

編集　各務原市埋蔵文化財調査センター
発行　各務原市教育委員会
TEL (0583) 83-1123
平成17年 3 月

写真１　上田遺跡の航空写真

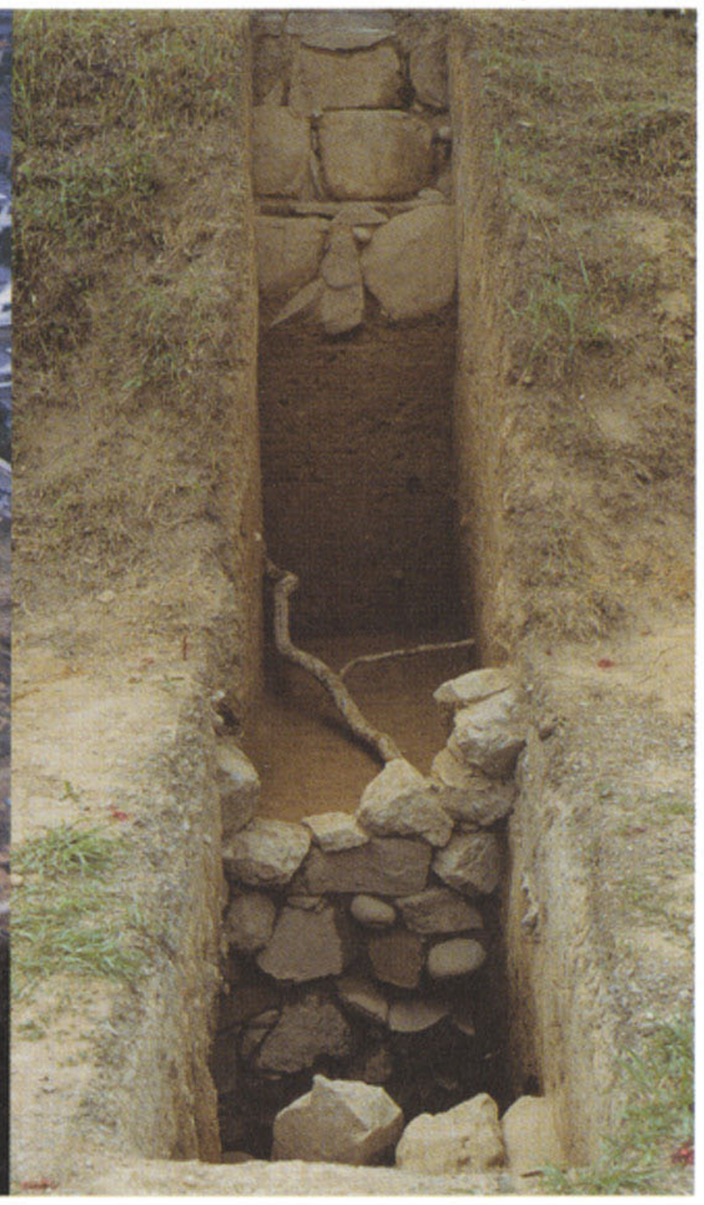

写真２　鵜沼西町4号墳第1トレンチ

発掘のきっかけ

現在の各務原市鵜沼西町１丁目は、閑静な住宅街となっていますが、平成６年度から土地区画整理事業が行われて今日の姿に至りました。この区画整理では、土地は整地され新しく道路が作られました。この時に埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。それが上田遺跡と鵜沼西町４号墳です。

上田遺跡

この遺跡周辺は、当時は普通の畑が広がっていました。ところが、土の中から鏃（やじり）や土器が出てくるため、遺跡が眠っていることが知られていました。

発掘調査を始めると、多くの土器が出土しました。その土器は、今まで市内では発掘例の少なかった弥生土器や古式土師器（はじき）が中心でした。また、生活の跡として、竪穴（たてあな）住居の痕跡が現れました。

土器の分布状況は図１の通りです。散漫に広がっているのではなく、遺物集中区１～４としたような、まとまりを示していることがわかります。これらのうち、集中区２～４に竪穴住居（SB１～３）が位置していることが理解されます。

竪穴住居跡の輪郭がはっきりしないのは、遺跡のある地形が北へ下がる斜面で、その途中に構えられているからです。地形の高い側には、住居跡の輪郭が残りますが、低い方は後世に崩れてしまっているようです。

では、上田遺跡の出土遺物を時代の古いものから順に見てみましょう。

１期　有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき）と呼ばれる石器です。槍（やり）先に用いられたもので、縄文時代草創期に使われたものです。今から約15,000年前の石器です。

２期　弥生時代後期の土器です。山中・欠山式と呼ばれるもので、集中区４のSB３を中心に出土しました。

３期　古墳時代前期（４世紀後半）の土器です。集中区２のSB１を中心に出土しました。

４期　古墳時代中期（５世紀前半）の土器です。集中区３のSB２を中心に出土しましたが、この集中区は、他時期のものも重複して認められます。

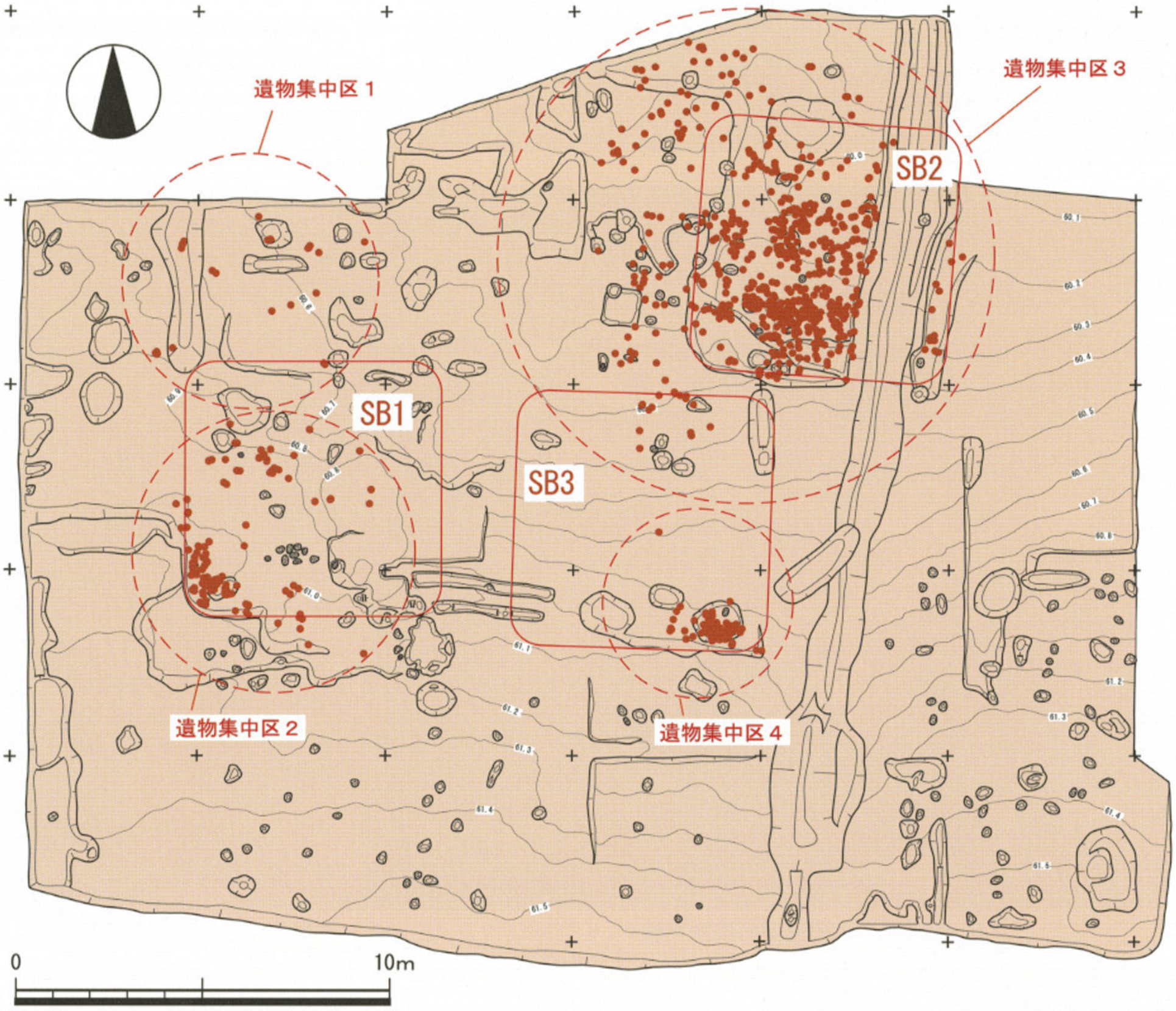

図1　上田遺跡の遺物分布図

５期　須恵器（すえき）が伴う段階の土器です。古墳時代後期（６世紀代）のもので、主に集中区３に重複していました。

６期　古墳時代終末（７世紀）の資料で、全散漫に分布していました。

７期　主に鎌倉時代の資料です。特にまとまりをもつ分布は確認されませんでした。

以上の７期にまとめることができます。全ては連続しているのではなく、少しずつ空白期があります。人々の行来往来（いきき おうらい）を示す証拠と思われますが、遺跡というのは、このように複数の時代に渡って人々の足跡が残されているものです。

特徴的な遺物としては、尾張地方の影響を強く受けた朱の彩色がある壺（つぼ）（パレススタイル壺）や、Ｓ字状口縁台付甕（かめ）、瀬戸内型土錘（どすい）、朝鮮半島系の須恵器などが見られます。

石器も少量出土し、石鏃（せきぞく）、石斧（せきふ）、スクレイパー、剥片（はくへん）、石核（せっかく）などがあります。

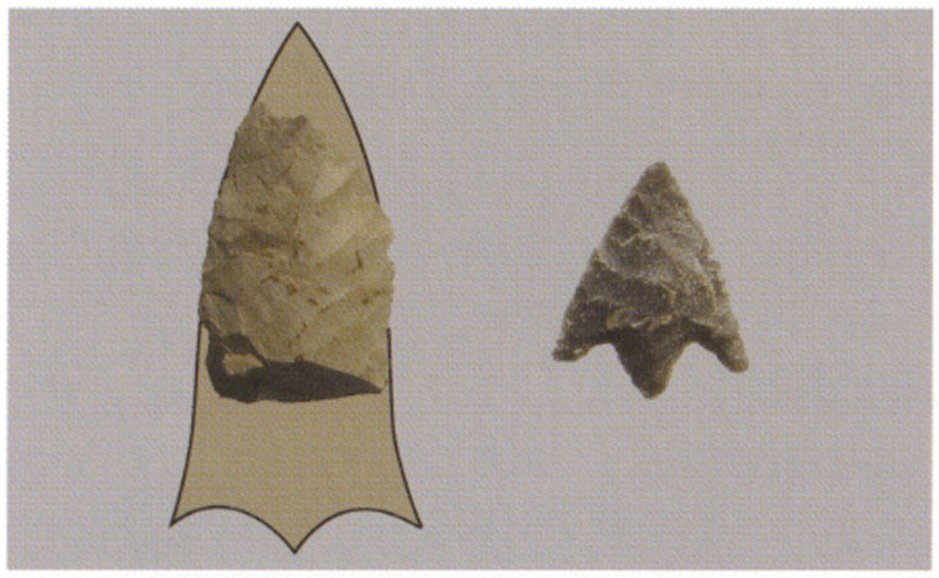

写真3　有舌尖頭器（左）と石鏃（右）

写真4　土器の出土状態（４期）

鵜沼西町４号墳

鵜沼西町古墳群については、古い記録を見ると７基で構成されていたことがわかります（図３）。この中で現在も残る古墳は、衣裳塚古墳として有名な１号墳と、今回発掘した４号墳のみです。ちなみに、３号墳は三角縁神獣鏡を出土した一輪山古墳です。

鵜沼西町４号墳は、直径14.25ｍ、高さ2.25ｍの墳丘を今も残しています。上部は平らに削られたのかプリンのような格好をしています。そして幾つかの石碑とともに１本の大木があります。北側には、石の階段も造られ、いかにも歴史と由緒のある場所という雰囲気に包まれています。

この古墳は、土地改良工事の対象から外され、そのまま残ることになったわけですが、周辺に道路工事が及ぶことなどから部分的な発掘を行い、遺跡の性格を確認する手段をとりました。

発掘調査では、第１～３トレンチを設定しました。その結果、図２の通り、３段の石積が現れました。この状況は、とても古墳のものとは思えないものでした。全体の姿を想像すると、最上段に大きな石が垂直に積まれ、断面が凸型を見せる構築物のようです。そして、その下の周りに石積をした溝が廻っているような感じではなかったかと思います。

このような発掘結果が何を意味しているのかを考えるためには、江戸時代に作られた『中山道分間延絵図』が参考になります。この古墳のすぐ近くには、中山道が通っており、絵図にはその沿線の様子が描かれています。そして、4号墳が位置するところには「六部塚」と表記されています。

ところで、鵜沼西町４号墳の上部に設置された石碑の中に「奉納大乗妙典六十六部日本廻国」と彫られたものがあります。廻国とは、全国六十六箇所にある霊場に法華経を納めるため、僧や庶民が旅をする信仰のことです。六部塚は、その廻国途中に病気などで倒れた巡礼者の墓のようなものだと言われています。この石碑が彫られた年代は正徳元年（1711）ですので、鵜沼西町４号墳は江戸時代に六部塚であったことがわかります。

トレンチから検出された石積は、この六部塚の時のものと考えられますが、本来は、鵜沼西町古墳群全体の分布から見ても、やはり古墳であったと思われます。つまり、六部塚は古墳の墳丘を再利用して、新たに石を付け加えることにより石碑の基壇や区画溝を造ったものだと考えられます。

鵜沼西町古墳群は、現在では２基しか残っていませんが、この４号墳には古墳群の様子を研究するための価値が残されています。つまり、江戸時代に六部塚となったことが、今日まで残る奇跡を生んだと言えます。

写真5　鵜沼西町4号墳の現況

写真6　廻国供養塔

写真7　鵜沼西町4号墳の発掘風景

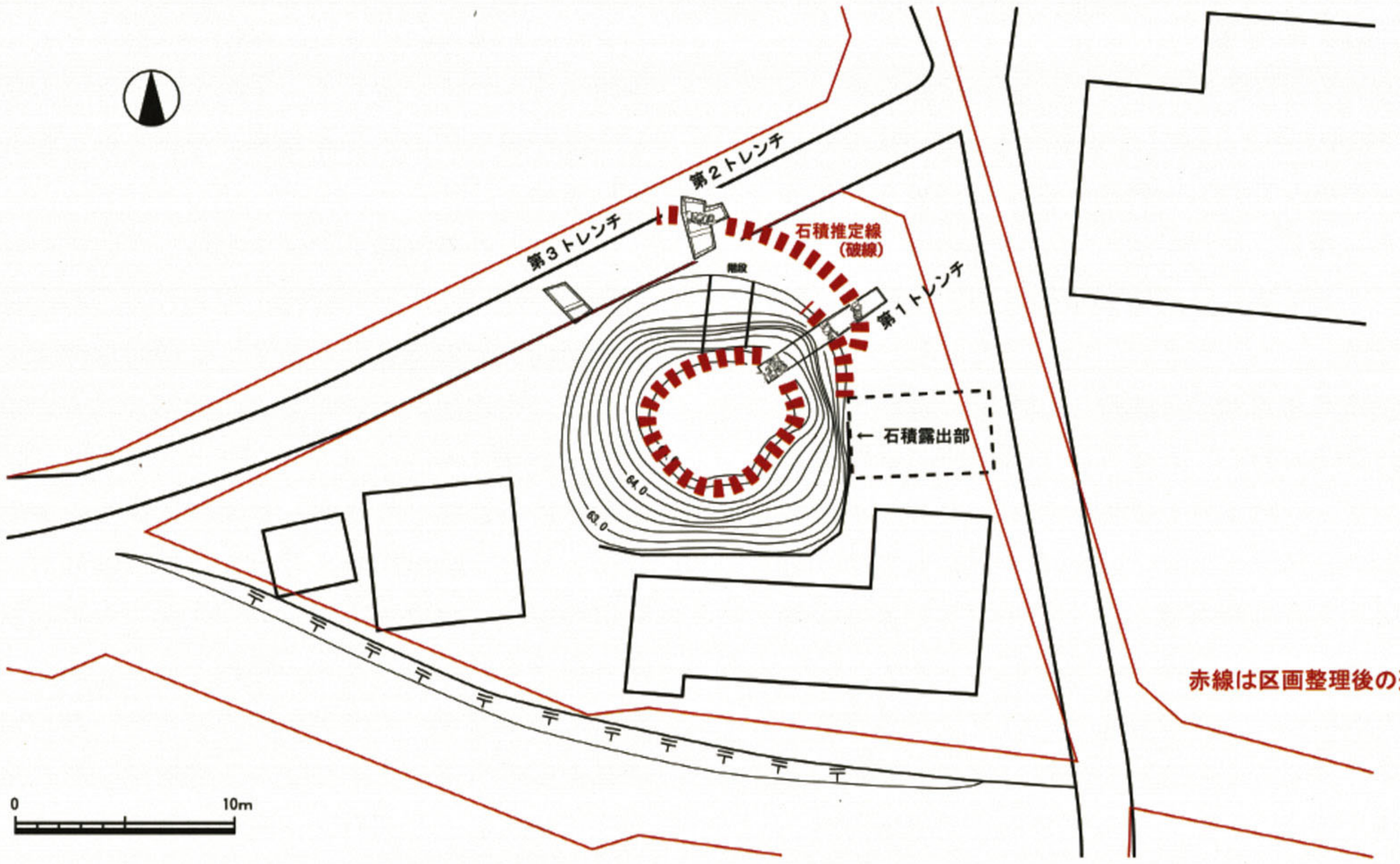

図2　鵜沼西町4号墳の平面図

まとめ

上田遺跡や鵜沼西町古墳群から西方へ少し離れた位置には、全長120mという県下二番目の規模を有する坊の塚古墳（前方後円墳）なども築かれており、一帯は大変に注目される地域となっています。

上田遺跡では、弥生時代の終わりから古墳時代にかけての様子を詳しく知る手がかりが得られました。これらの古墳群を築き上げた大きな勢力が、この地で成立した背景や経緯を研究するための重要な資料になると思います。

鵜沼西町４号墳は、巨大な古墳とともに作られた円墳の一つです。内部の様子は、まだ謎のままですが、今日まで、その姿が残されたことは幸いです。江戸時代に六部塚に改修工事されたと考えましたが、全国的にみても、このような事例は幾つかあるようです。

上田遺跡も、鵜沼西町４号墳も、複数の時代に色々な使われ方がされました。まさに、文化財とは人々の長い足跡を刻んだ歴史の証言者と言えるのではないかと思います。

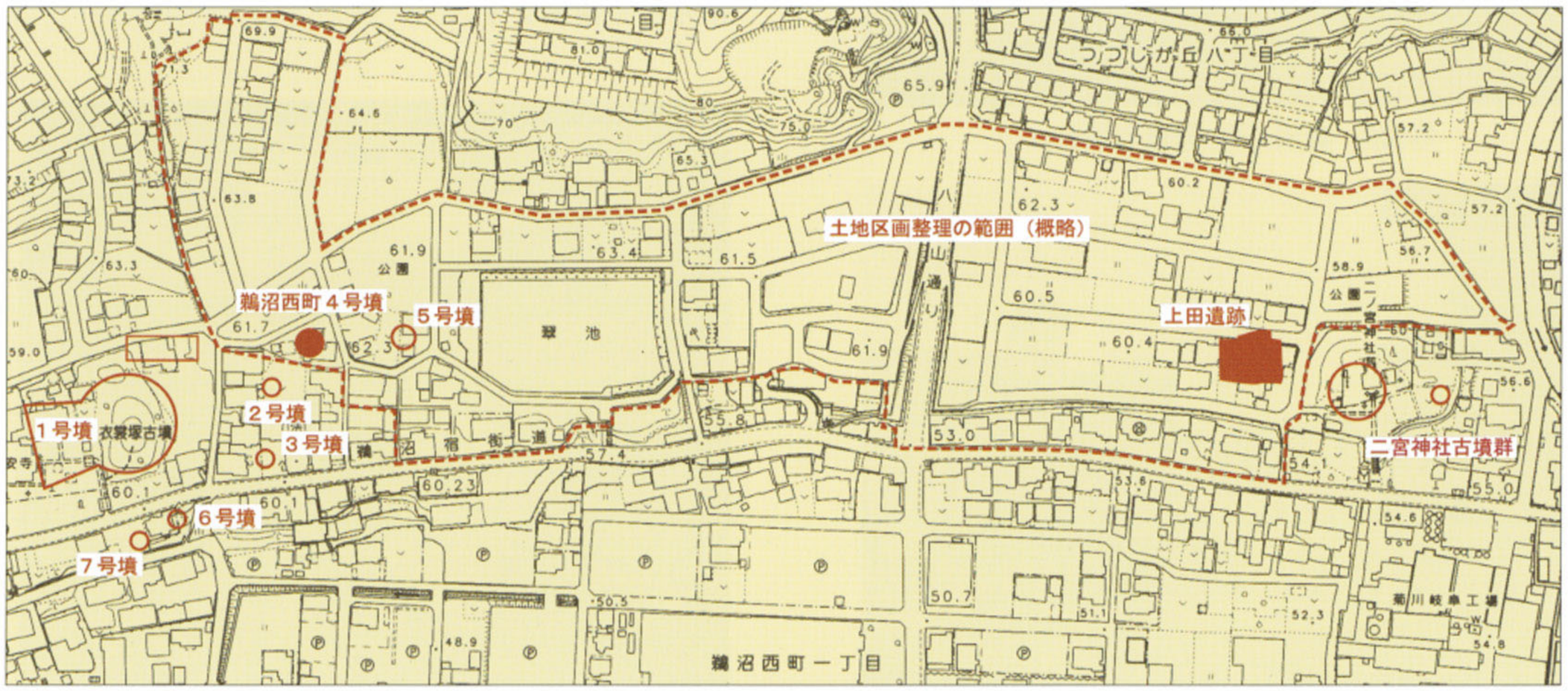

図3　遺跡の位置